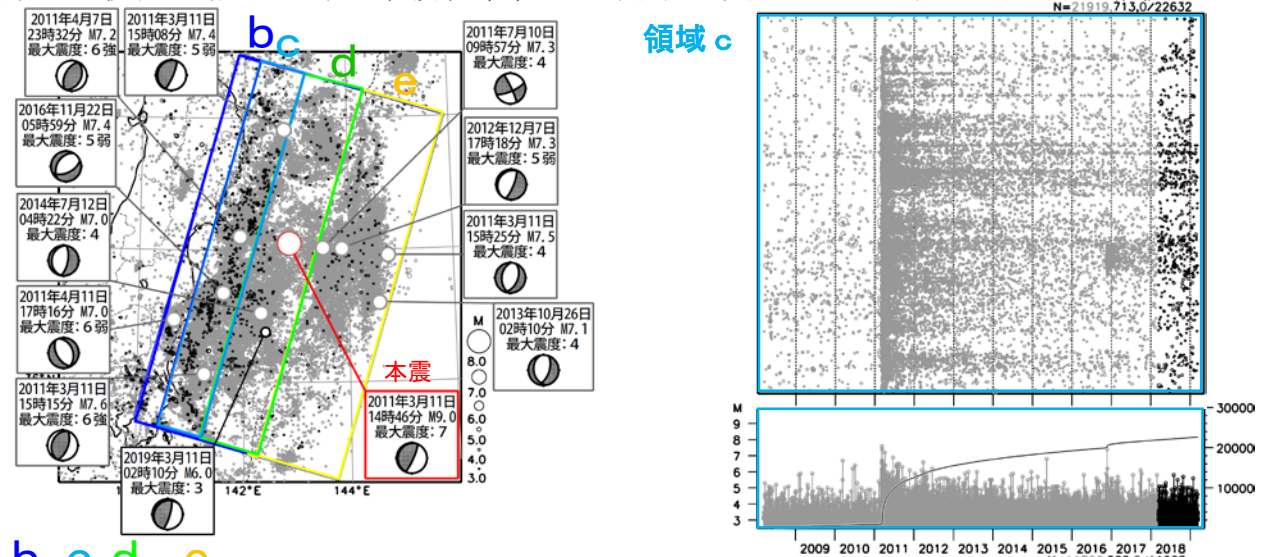


（3）領域別に分けた余震活動推移

余震域（図1-1の領域a）を短冊状（図3-1の領域b～e）に分けた活動の推移を図3に示す。陸域の領域bでは、2016年12月28日の茨城県北部の地震（M6.3）の周辺で、地震活動が引き続きみられる。沿岸域の領域cでは、全体的には活動は低下しつつも2016年11月22日の福島県沖の地震（M7.4）の周辺などで活発な余震活動が引き続きみられる。領域dでは、活動は低下しているが、2019年3月11日に福島県沖でM6.0の地震が発生するなど、時々規模の大きな地震が発生している。東北地方太平洋沖地震発生以前（2001年から2010年）の1年間に発生するM4.0以上の地震の標準的な回数（年平均値や年中央値）と比較する（表3-1）と、領域b,c,eでは本震発生以前に比べて活発な地震活動が継続している。



領域	2001年～2010年 の年平均値・年中央値		2018年3月11日14:46～ 2019年3月11日14:45
	平均値	中央値	
b	15.9	13.5	22
c	60.3	59	122
d	50.8	39.5	39
e	13.5	12	20

表3-1 各領域別のM4.0以上の地震回数
(2001年～2010年の年平均値・年中央値、
東北地方太平洋沖地震発生7年後から1年間の地震回数)

図3-1 震央分布図と時空間分布図

(2008年3月11日14時46分～2019年3月11日14時45分)
領域b～eの範囲は、図1-1の領域aと同じ。

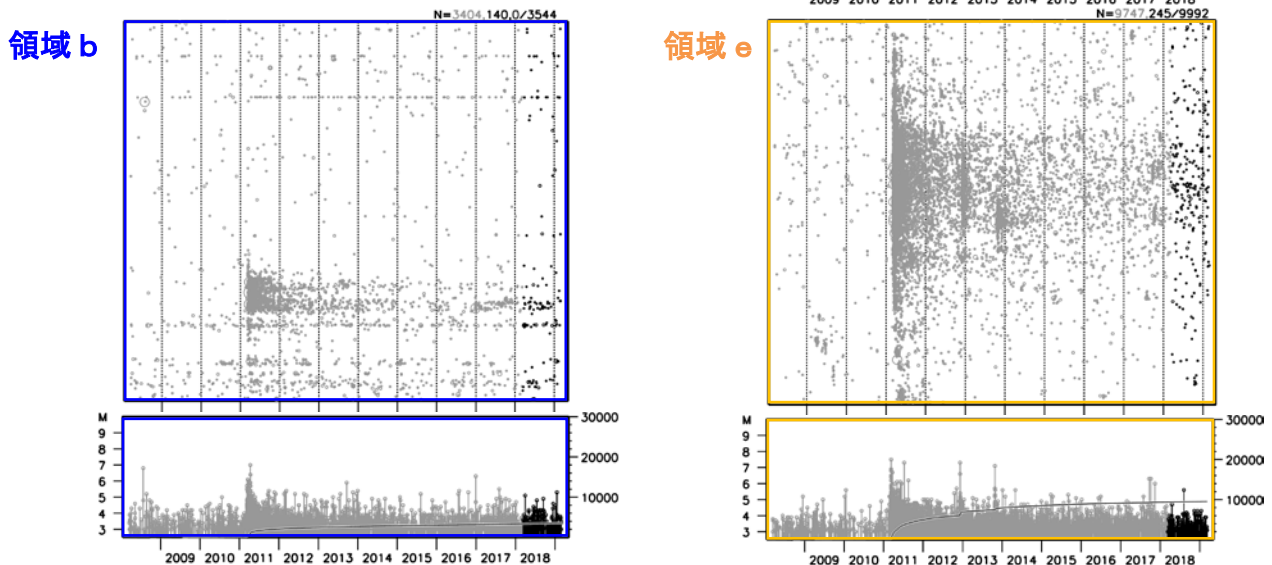


図3-2 各領域（図3-1の領域b～e）の時空間分布図とM-T図及び回数積算図
(左下：領域b 右上：領域c 右中：領域d 右下：領域e)